

## 乳児期に何らかの疾患を発症した子どもと家族に対するプライマリケアにおける発達支援

### ー乳幼児健診・外来との連携プロセスを通してー（課題研究）

Growth Developmental Support in the Primary Care for Children sick from Infancy and for their Family.

-Through Cooperation with Infant Health Screening and Outpatient Care-

小児看護学専攻 上級実践コース 山本 光映

#### 【研究目的・方法】

本研究は、4 ケースを対象に健診・外来を通して行った継続的ケアの展開過程と結果を詳細に記述した事例研究である。研究目的は、プライマリケアにおいて乳児期に何らかの疾患を発症した子どもと家族に対して疾患や家族の役割機能が成長発達に及ぼす影響を含めた発達のアセスメントを行い、健診・外来を通して継続的なケアを提供し、そのプロセスを分析することにより発達支援のあり方を考察することである。研究方法は、アセスメントシートをもとに記述した実習記録を用いて、ケアの一連のプロセスの分析を行った。

#### 【結果】

対象のケースに対するケアのプロセスは、1. 対象者の抽出、2. ケア開始までの経過と問診・診察によるケアの必要性の判断、3. 問題の抽出、4. 課題の抽出とケアの方向性の判断、5. ケアの提供、6. ケアの評価であった。全ての対象は、いずれも体重増加不良など子どもの成長発達の遅れが明らかに認められ、発症後月齢 6～9 か月の時期に成長発達の遅れや悪化の兆しがあった。発達の遅れの原因は、疾患自体や疾患に伴う二次的なもの・家族の不安など様々であった。全ケースに共通した子どもの課題は、成長発達の遅れや育児や疾患への家族の不安から子どもの年齢に応じた発達課題が未達成であること、家族の課題は、医療者の指導内容を家族がうまく子どものケアに取り込めていないことであった。一方、健診と外来の連携不足から家族の不安が解消されていないという医療者側の課題もあった。子どもや家族への直接的ケアは、子どもの身体機能や生活形態、家族の価値観などを考慮した行動レベルの指導を行った。また、健診・外来での継続したケア提供のために連携体制を検討したり、健診と外来を行き来して現場の医療者と協働してケアを行った。

#### 【考察】

提供したケアの特徴から挙げられた発達支援のポイントは以下の通りとなった。ケア提供の開始時期と場所は、疾患が直接成長発達に影響する場合は発症直後の外来、アレルギー疾患のリスクが高い場合は 6 ヶ月健診時とする。問題の抽出には、フィジカルイグザミネーションや系統的な問診から適切な評価指標を利用した統合的な発達評価（アセスメント）を行う。疾患・育児環境などの原因を明らかにした問題を抽出し、問題に応じて子どもと家族の課題を明確に分け、指導内容は日常生活にケアを取り込めるような行動レベルのものとする。継続支援のために健診・外来の医療者と子どもや家族の課題・不安の共有を行い、現場の医療体制に合わせてケアの検討・分担と行う。ケアを振り返り、ケアの修正を行う。また、これらのケア提供に必要な看護師の能力として、成長発達の評価に必要な臨床知識や技術・必要な健康データの系統的な収集などが挙げられた。以上のことより、発達支援においては、子どもの成長発達を促進するという主軸を持った小児専門の高度実践看護師が、エビデンスに基づいた看護ケアの提供、子どもや家族・他の専門職者との協働などを行うことが必要であると考えた。今後の課題は、ケア提供においての医師との役割分担をどのように行っていくかである。